



ロータリーは機会の扉を開く

国際ロータリー 2020-2021 年度 前橋北ロータリークラブ会報



2020年9月7日 第1691回

会長 川口 武志 幹事 塚田 憲利

会場監督 嶋田委員

◇歌 国家斉唱 我らの生業

◇会員数 78名◇出席率 75.64%

◇新会員入会式

氏名 秋葉 亮介
事業所名 秋葉写真館
役職 代表取締役



◇ニコニコBOX

川口武志会長…秋葉亮介さんの入会を心より歓迎いたします。また、本日の例会より再開をいたしました。今後ともご理解とご協力を皆様、お願いいたします。

門倉正会員…誕生日祝ありがとうございます。

設楽守廣会員…8/5 伊香保カントリーコンペでは大変お世話になりました。

塩谷勝利会員…8/5 開催の当クラブゴルフコンペで優勝しました。ハンデがたまっていて運がよかったのと最近、調子がいいです。

大島秀夫会員…9月よりユアパートナーにかわりました。今後ともよろしくお願いいたします。

湯澤晃会員…誕生日祝ありがとうございます。
菅原次男会員…誕生日祝ありがとうございます。川口年度初出席です。頑張ってください。

城田悦也会員…誕生日祝ありがとうございます。コロナに負けずに頑張りましょう。

佐藤敬会員…結婚祝ありがとうございます。あまりの中の良さに先月19日にまた1人娘が生まれました。もう最後だと思います。

相原佳寛会員…結婚祝ありがとうございます。



◇幹事報告 塚田幹事 理事会報告

◇委員会報告 親睦委員会 上村委員長
ゴルフ部 大島秀夫会員

◇会長の時間 「街の動き」

本日は新会員の秋葉さんを迎え、また1名の仲間が増えましたのでよろしくお願いいたします。

1か月振りの例会再開で、今日の理事会でも審議の前にお話をちょっとさせて頂きましたが、例会を開催又は中止にするかの判断をしながら今月の第1例会に至っております。

今後、特に感染者が急激に増加したり、または会員の中で感染者が出てたりという事がなければ、坦々と予定されている例会については進行していこうと思っております。その中で9月28日の夜間例会も含めてそのまま開催をさせて頂く予定でございます。

先週の金曜日に第1分区の6RC会長幹事会がありました。その中で各RCでは色々な事を苦慮して例会を開催しているという事です。我々の9月の夜間例会開催の確認を他クラブの様子を見ながら、考えているというお話が多々頂きました。

基本的に私の物の捉え方としては、やるか、やらないかという判断です。やるからにはそのまま遂行し、色々な事に対策を取りながら前橋北RCは9月から通常にやっていきますという返事を皆さんにさせて頂きました。色々ご理解頂ける方、頂けない方もいらっしゃるかもしれません。

今回の例会のご案内にも書かせて頂きましたが、どうしても不安だという方に関しましては、例会の欠席も認めますが、私は基本姿勢の状態で開催させて頂く予定ですので、どうぞ皆様のご理解とご協力をお願いします。また状況が変わる場合は、早めの決断をしてお知らせをい

たしますので、よろしくお願ひします。

今日のお話をさせてもらうのは、先日、コロナ禍において、当クラブの亦野会員と岡田会員が中心になり広瀬川のナイトテラスという事業をやっていました。事業内容は城東町の広瀬川の畔の一部にキッチンカーを何台か出店して、外で食事が出来るような場所を作り街の人達の動きを作るといふ事です。私もある会員からお声をかけていただきその会場へ行ってきました。

前橋も飲食店にてクラスターが発生し、8月は人の動きがほぼ止まっているという事で、私も行ってみました。以前に行きました、お酒が飲めるようなイタリアンのお店も7月で閉店した話など色々な話を亦野君に聞かせてもらいました。副で岡田君が付いて、その先に商工会の青年部の方や前橋青年会議所の方がお手伝いをしていました。

このロータリーの枠組みの中でも手伝われている方がいらっしゃるかと思います。なかなか難しい時代で我々も体の事も考えなければいけません、やっぱり前橋の街の中で生活をしている人達も沢山いますので、完全に人の動きが止まると直結して本当に先々の事を考えなければいけない方々も出てきているのは事実です。

私個人の意見としては感染防止を基準に意識しながら動いてもらっているような場所、会場には動いてもいいのではないかと考えてます。個々、皆さん思いとは違ふと思ひますが、いずれにしても、皆さんが健康である事、それから前橋の経済も少し気にしながら、人の動きを作って色々な意味で協力し前橋が元気に活気づくように力添え出来る所は力添えしていきたいと、そんな風に思っています。

それから1つ追加してお話します。私は朝、会社に行くとメールマガジンで色々なものを見ております。その中の資料に頑張れる言葉というのがあります、見ていたら結構面白いものがありました。

全部で20個位の事が書いてありました中で私の感覚に近い、頑張れる言葉を皆さんにお伝えして会長の時間とさせて頂きます。武者小路実篤さんという小説家の言葉です。

「もう一步。いかなる時も自分は思ふ。もう一步。今が一番大事な時だ。もう一步」

武者小路実篤：

1885年（明治18年）5月12日、武者小路実篤は公卿の家系である武者小路家に生まれる。父は2歳のときに結核で死去。実篤は6歳のときに学習院初等科に入学。朗読と数学が得意で、体操と作文が苦手だった。同中等学科6年のときに留年していた志賀直哉（1883～1971）と親しくなる。同高等学科時代はトルストイ（1828～1910）に傾倒、日本の作家では夏目漱石（1867～1916）を愛読するようになる。

1906年、実篤は東京帝国大学哲学科社会学専修に入学。翌年には友人の志賀直哉らとつづいた「十四日会」で創作活動をする。同年に東大を中退。

1910年、25歳の実篤は志賀直哉らと文学雑誌『白樺』を創刊。これにちなんで白樺派と呼ばれた。

1918年には理想的な調和社会、階級闘争のない世界という理想郷の実現をめざして、宮崎県児湯郡木城町に村落共同体「新しき村」を建設。実篤は農作業をしながら文筆活動を続けた。しかし同村はダム建設により大半が水没することになったため、1939年に埼玉県入間郡毛呂山町に「新しき村」を建設。ただし、実篤は1924年に離村し、会費のみを納める村外会員になっていた。

1936年、51歳の実篤はヨーロッパ旅行に出発。旅行中に体験した黄色人種としての屈辱により実篤は戦争支持者となってゆく。

1946年には貴族院議員に勅選されるが、太平洋戦争中の戦争協力が原因で公職追放された。

1948年、実篤は主幹として『心』を創刊、『真理先生』を連載。

1951年に追放解除となり同年に文化勲章を受章した。

1955年、実篤は70歳で調布市仙川に移住、亡くなるまでこの地で過ごした。

1976年4月9日、武者小路実篤は尿毒症により死去、90年の生涯を閉じた。

